

(総務省) 全体ヒアリング概要

日時：平成21年11月5日(木)

場所：合同庁舎4号館4階第4特別会議室

聴取者：有識者議員 相澤議員、本席議員、奥村議員、白石議員、青木議員
内閣府 藤田政策統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大江田審議官、
須藤参事官、更田企画官

説明者：総務省 河内 大臣官房総括審議官(国際担当)

【相澤議員】

総務省全体の予算では何%の減なのか。科学技術関係予算で9.5%減というのは減額幅が大きいのではないか。

【総務省】

地方自治や恩給経費を除く一般会計の歳出としては2.2%の減である。

【相澤議員】

グリーンイノベーション施策のうち、8月の要求時には含まれていなかった施策は何か。

【総務省】

ない。

【相澤議員】

総務省の科学技術関連予算要求の8月からの大きな変更点は何か。

【総務省】

全体としてマイナス要求となっているが、グリーンイノベーションの推進の方針を受けて、環境関連施策はなるべく減額しないようにした。

【相澤議員】

グリーンイノベーションの推進という方針を受けて、新たな要求を行ったというよりも、8月時点で、既にこのような中味で要求していたということか。

【総務省】

8月の段階から重点化に取り組んでいたということである。

【奥村議員】

様式2で予算要求額を減らした部分、中止した施策があれば、どういう分野のものをどのような理由で減らしたのか。

【総務省】

8月の要求時から、項目を無くした施策は無く、全体的にそれぞれの項目の中で減額している。

【奥村議員】

どの府省も個別施策数が増える一方で、予算の制約もあり、施策に中味が薄くなってきている。ICTの分野は国際競争が激しい分野であるが、分野の特性を考えた上で、そういう判断でいいのか。

【総務省】

判断が難しいところであるが、開発が続いているものは、完全に切ってしまうよりも、その中で必要な技術要素を判断して、技術開発を続ける方がトータルの技術開発力の向上にもつながるものとする。

【相澤議員】

グリーンイノベーションの推進という方針を受けて、総務省として具体的に何を実施したのか。

【総務省】

CO2削減効果について検討し、その結果を踏まえて、研究開発のパッケージとして組み上げ直したところ。

【相澤議員】

新規の課題も無いということは、今回の個別ヒアリングの対象施策はないのか。

【事務局】

情報通信Gにおいて、個別ヒアリングを実施する予定。

【相澤議員】

実質的にどのような変化があったのか示す必要があったのではないかと。

【本席議員】

総務省の責任というより、変化がわかりにくい資料4-1をまとめるよう依頼した点も問題と考える。全ての施策を一覧表として全体を見渡せるように工夫した方がよ

かったのではないか。

以上